

2022年4月1日

The Emerging Markets Weekly

停戦協議への期待と紛争長期化への懸念で揺れる

新興国市場: 先週末 25 日、アジア時間の新興国通貨は大半が上昇。原油価格の下落が支えとなった。INR や THB が堅調に推移した。欧米時間の新興国通貨はまちまち。米金利が上昇する中で高金利通貨が選好された。BRL は前日比+1.8%上昇、東欧通貨や MXN も堅調だった。週初 28 日、アジア時間の新興国通貨は下落。ロシアとウクライナがトルコで停戦協議を開催することで合意したことへの期待感が残るも、28 日に上海市でロックダウンが開始されたことで市場心理が悪化した。KRW や TWD が値を下げたほか、CNY も弱含んだ。欧米時間も新興国通貨は大半が軟調。中国経済への懸念から商品市況が調整し、ZAR が前日比▲1%と続落、BRL や MXN も値を下げた。一方、RUB は前日比+8.1%と大幅に反発した。29 日、アジア時間の新興国通貨は、ロシアとウクライナの停戦協議への期待と中国経済への懸念が交錯する中、概ね横ばい推移となった。欧米時間の新興国通貨は上昇。停戦協議についてロシア側が建設的だったと評価、一部での軍事作戦縮小を表明したことが手掛かりとなった。RUB は前日比+8.0%と続伸。東欧通貨も大きく上昇したほか、TRY と MXN も前日比+1%超値を上げた。30 日、アジア時間の新興国通貨は前日の流れを引き継ぎ上昇。THB や KRW、TWD の上昇が目立った。欧州時間はまちまち。前日のロシアとウクライナの停戦協議について、ロシア大統領府が大きな進展はなかったとの見解を示し、新興国通貨は上昇幅を縮小する展開となった。TRY や BRL が前日比マイナスとなった一方、RUB は前日比+4.8%と続伸した。31 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。中国の PMI 下振れが警戒された一方、原油安が一部通貨の下支えとなった。利上げ観測から PHP が買われた。欧米時間も新興国通貨はまちまち。ウクライナ危機の長期化への懸念を背景に欧米株が下落、EUR 反落に東欧通貨も連れ安となった。ZAR も大きく反落。片や、RUB は前日比+2.7%と 4 日続伸。BRL も反発した。

アジア: 25 日発表のマレーシア 2 月消費者物価指数(CPI)は 2.2%と前月(同+2.3%)から鈍化、市場予想(同+2.4%)も下回った。中国の上海市は 27 日、直前まで否定していたロックダウンに踏み切ることを発表した。まず市の東側で 28 日から 4 月 1 日まで、その後は西側で 4 月 5 日にかけて新たに実施するとした。タイ中央銀行(BOT)は 30 日、政策金利を 0.50%に据え置くことを決定。景気回復の支援を優先する。インフレ率見通しについては、2022 年を 4.9%まで大幅に上方修正したが、2023 年には 1.7%に減速するとの見解を示した。中国国務院は 30 日、国内経済の下押し圧力に対処すべく緊急対策の策定を提言した。31 日発表の中国 3 月 PMI は、製造業(49.5)と非製造業(48.4)のいずれもが前月から悪化するとともに、拡大・縮小の節目となる 50 を下回った。

中東欧・アフリカ: ロシアのプーチン大統領は 31 日、ロシア産天然ガスを購入する際に RUB での支払いを義務付ける大統領令に署名した。米欧日など「非友好国」の企業が対象。RUB で支払わない場合はガス供給を停止するとした。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(フィリピン)

3月金融政策会合～インフレ見通しを上方修正

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は24日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを超えて過去最低の2.00%に据え置いた(図表1)。政策金利は11回連続で据え置きとなった。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートもそれぞれ2.50%と1.50%とした。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持の予想が有力であった。

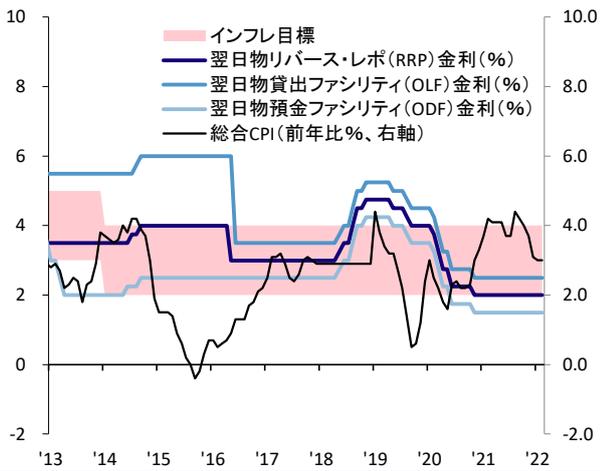
声明文では、インフレ予想を引き上げることが発表された。22年と23年の物価上昇率をそれぞれ前年比+4.3%(+0.6%ポイント)、+3.3%(+0.3%ポイント)とした。22年についてはBSPが目標とするレンジ(同+2.0~+4.0%)を上振れるとし、インフレ懸念がかなり強まっていることが見て取れる内容となった。足許のインフレ動向としては20年3月以来の落ち着いた水準に留まっているが、昨年からの食料品価格高騰が和らいだ側面も大きい(図表2)。

前月からエネルギー価格の高止まりは指摘されていたが、食料品価格の伸びが下げ止まれば、CPIの構成項目のうち、食料品・エネルギー価格は約半分を占めることからBSPが想定している通りインフレが急進する可能性も十分に考えられる。また、BSPは物価高が労働賃金に波及することに懸念を示しており、現に失業率は緩やかながらコロナ禍前の水準に近づき、労働需要も改善の兆しが見える(図表3)。今後のインフレ動向とともに労働市場の回復状況もBSPの金融政策転換のポイントとなりそうだ。

今後の政策運営に関して、ジョグノ総裁は引き続き経済を下支えすることを優先する意向を示した。この決定については本会合以前にも示唆された通りであったが、米国の利上げを受けて追随した利上げを検討することはないとの見解を示している。その一方で、インフレ懸念が高まった際にはその対応の準備を整えるとした他、コロナ禍において継続していた流動性供給措置については見直しを検討する方針も示している。前月会合時点と同様、過度なインフレ高進がなければ今年後半から段階的に進んでいくだろう。

PHPは足許軟調地合いが続く。ロシア-ウクライナ間の関係悪化は改善の兆しが見られず、資源価格の高騰は前回会合時から加速した。こうした状況がPHPの実需環境の逆風となり通貨安が続く展開となっている(図表4)。こうした傾向は非資源国のアジア通貨にも同様の傾向が見られている。また、ドル側の要因を見るとFRBのタカ派傾斜が3月FOMC以降更に加速し、米金利の騰勢が強まっていることもあり、これらが各国の個別要因よりも大きな相場要因として働いている印象がある。現状PHPの買い要素は乏しい中で、対外要因に振られる展開を引き続き警戒していきたい。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標



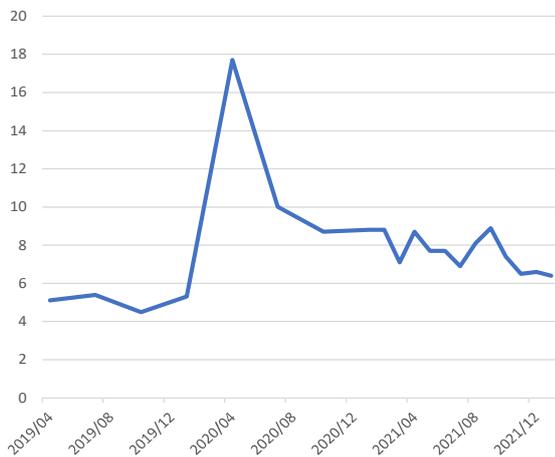
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 失業率の推移(%)



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 4: 原油価格と PHP 相場



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(メキシコ)

タカ派姿勢で足並みを揃えた Banxico

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は24日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を50bp引き上げて6.50%とすることを全会一致で決定した(図表1)。利上げは2021年6月以降、7回連続。50bpの利上げは市場予想通りといえるが、全会一致での決定は今次利上げ局面に入って初めてのことである。ウクライナ危機に伴うインフレリスクの一段の高まりに、同行はタカ派姿勢で足並みを揃えた格好だ。

Banxicoは声明文で、パンデミックを起因とする供給制約からのインフレ圧力とともに、地政学リスクに伴う圧力が追加的に発生していることに言及した。

In addition to the shocks that have affected inflation throughout the health emergency there are pressures associated with the geopolitical conflict.

実際、2月の消費者物価指数(CPI)は前年比+7.28%と前月(同+7.07%)から再加速。12か月連続で同行の目標レンジ(前年比+2%~+4%)を上回った。3月前半のCPIも同7.29%と高水準を維持しており、直近ピークの同+7.36%に近付きつつある。また、2月コアCPIも同+6.59%と加速を続けており、インフレ圧力がより広範囲に及んでいることがうかがえる(図表1)。

先々のインフレ見通しも上振れが続いている。Banxicoの公表した最新のCPI見通しでは、足許の2022年1~3月期から2023年10~12月期にかけての8四半期について、前回会合時点から再び上方修正が加えられた(図表2)。コアCPIの見通しについて同様だ。インフレリスクのバランスについて声明文では、悪化(deteriorated)しているとの文言を追加するとともに、リスクは引き続き上方に傾いているとの認識を示した。

また、Banxicoは声明文で、追加利上げ決定の背景として、グローバルな金融環境の引き締めも指摘した。FRBは3月FOMCで利上げに着手し、2023年には中立金利を上回る水準まで政策金利を引き上げる可能性が示唆されたところだ。市場ではドル選好が強まった。しかし、ペソ下落はインフレへの影響の観点からBanxicoも無視できない。実際、同行はインフレの上振れリスクのひとつに通貨安(ペソ安)を挙げている。

そして、地政学リスクの高まりによって、このドル選好は強まるもしくは長期化する可能性がある。現在のウクライナ危機は、供給面から資源価格高騰というインフレ圧力をもたらすだけではない。市場におけるリスク回避を強めることでペソをはじめとする新興国通貨の下落を促し、間接的にもインフレ圧力を高めうる。

以上を考慮すると、Banxicoは次回会合(5月12日開催予定)でもタカ派姿勢を維持するとみられ、追加利上げの可能性は高そうだ。先々のインフレ見通しが抑制できなくなるようなことが無いよう、今回同様に全会一致で引き締めスタンスを明示するのではないかと。これが回避されるとすれば、同行が挙げるインフレ下振れリスク、①ウクライナ危機の沈静化、②需給不足の影響が想定以上に顕在化、③原油価格の下振れ、④ペソ高、等が実現した場合となろう。

市場概観(タイ)

3月金融政策委員会～景気は下方修正、インフレ懸念は深刻化

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

タイ中央銀行(BOT)は30日に金融政策委員会を開催し、政策金利を過去最低水準の0.50%に据え置いた(図表1)。政策金利は委員会メンバーの全会一致の下で15回連続の現状維持となった。なお、ブルームバーグの事前予想では政策金利の据え置き予想が有力であった。

声明文では、ウクライナ危機の長期化によって外需が低迷し景気に打撃を与える点、インフレの高進が企業、家計部門に負担を与える点を主なリスク要因として言及した。インフレ高進への懸念はかなり強まっている中でも、BOTは景気支援の観点から緩和姿勢を維持する方針を示した。

また、今回合会ではBOTは経済物価見通しを更新している(図表2、カッコ内は12月時点の予想)。実質GDP成長率予想については、22年は前年比+3.2%、23年は同+4.4%と12月時点からいずれも下方修正された。下方修正の背景としては主に声明文記載の通り、ウクライナ情勢悪化に伴う貿易の停滞や原油価格の上昇などが指摘されている。

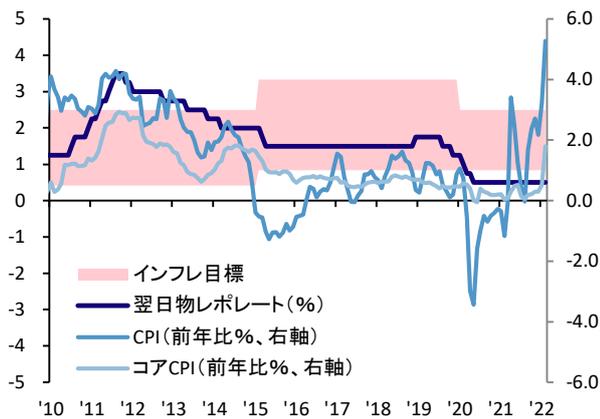
片や、物価見通しについてはまとまった幅で上方修正されており、特に22年に関しては前年比+4.9%と12月時点から+3.2%ポイントも引き上げられている。これはBOTの目標とするレンジの+1.0%～+3.0%を大きく上回る。直近に公表されている2月CPIは前年比+5.3%と13年ぶりの伸びを記録し、エネルギー価格、食料品価格の上昇に伴って既に大きく高進している。声明文では今年の7～9月期にかけてまでCPIが前年比で5%を超えるとの見方を示しており、前回合会から更にインフレへの懸念を強めていることが見て取れる。また、コアCPIに関しても大きく引き上げている。需要面でのインフレ圧力が現時点では強くないことも示唆されているが、今後の持ち直しを想定したことに加え輸入物価の上昇予想を反映した内容であるものと推測される。

23年のインフレ予想を見ると一見BOTの目標レンジ内に収束する内容となっているが、これは大きく物価上昇が見込まれる22年との比較であり、そこから更に物価上昇が進むことを示唆する内容である。原油価格の予想も23年でも1バレル90ドルとかなりの高水準に設定していることは注目すべき点ではないだろうか。一方、BOTは供給面からのインフレは一時的であるとの見解を維持し、23年後半以降とみられる潜在成長率の水準を回復した時点で政策調整を検討すべきとしている。とは言え、見通しにおけるインフレ高進ペースはかなり際立っており、このまま緩和姿勢を維持することが難しいように見受けられる。

以上、タイ経済は前回合会から景気減速、高インフレの懸念が目立つ格好となっている。こうした状況において中央銀行がとる手段は金融引き締めによって需要を抑圧し縮小均衡で物価上昇を止めるか、金融緩和継続によって供給制約が解消するまでの時間稼ぎとして景気を下支えするかのいずれかとなるが、BOTは後者を選択した格好だ。景気回復の遅れのほか、消費者心理に改善の兆しが見られないことに配慮したものと考えられる(図表4)。近年の消費者心理の悪化は低成長、コロナ禍での行動制限措置などに起因するものと考えられるが、今後も停滞が続く場合には、インフ

レ高進による家計部門への負担が増したといった要因も考えられるのではないかと。こうした状況下、早ければ4~6月期にもインフレ対応を検討する段階に入ることも想定しておきたい。この他、政策転換の動機としては米国の利上げに追随した金融引き締めが考えられるが、米国とは景気回復のペースが大きく劣後しており引き締め余地も少ないことから、BOTはこれを背景に動くとは現状考えにくい。あくまでインフレを一過性として供給面でのインフレ収束を待つというのが足許のBOTのスタンスであると理解したい。

図表 1: タイの政策金利とインフレ率



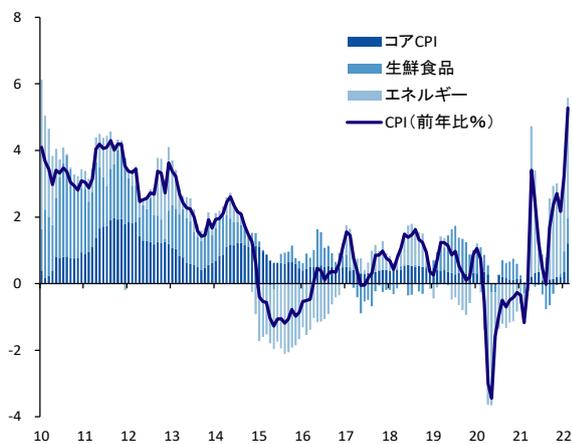
出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 2: BOT 経済物価見通し (前年比%)

	2022	2023
実質GDP成長率	3.2 (3.4)	4.4 (4.7)
CPI	4.9 (1.7)	1.7 (1.4)
コアCPI	2.0 (0.4)	1.7 (0.7)
原油予想価格 (ドル)	100 (68)	90 (69)

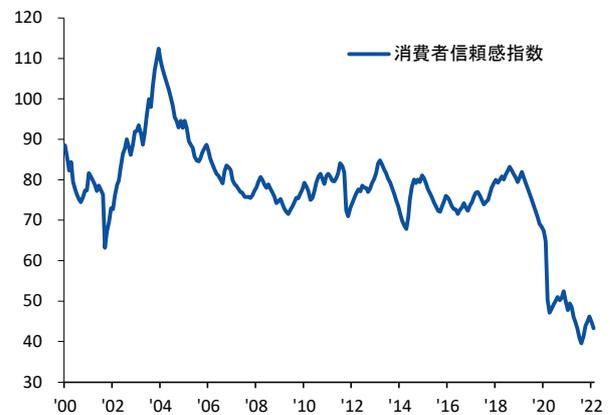
出所: BOT、みずほ銀行 ※カッコ内は12月時点の予想

図表 3: CPIの動向 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

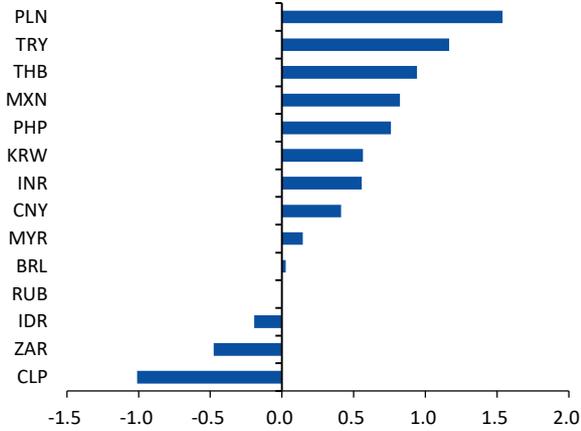
図表 4: 消費者信頼感指数



出所: CEIC、みずほ銀行

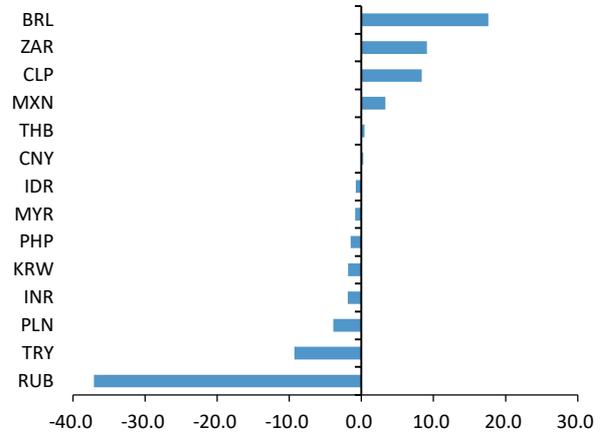
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



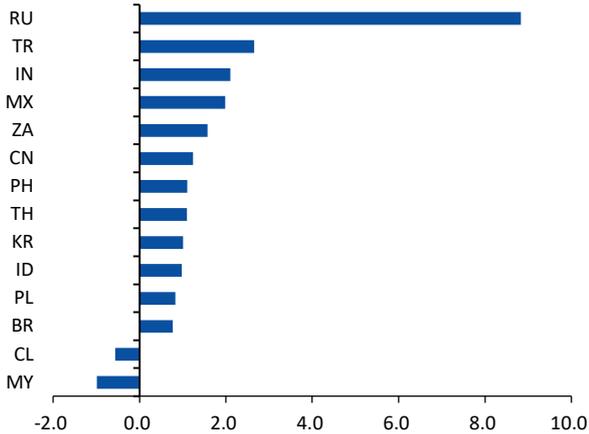
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



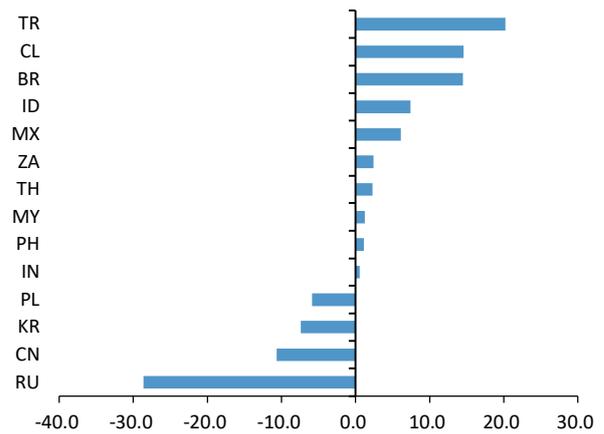
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



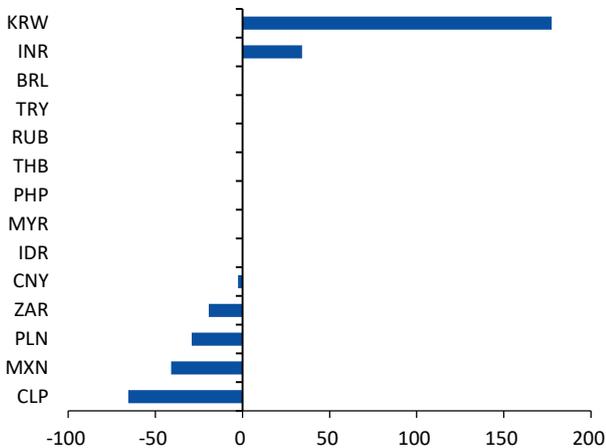
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

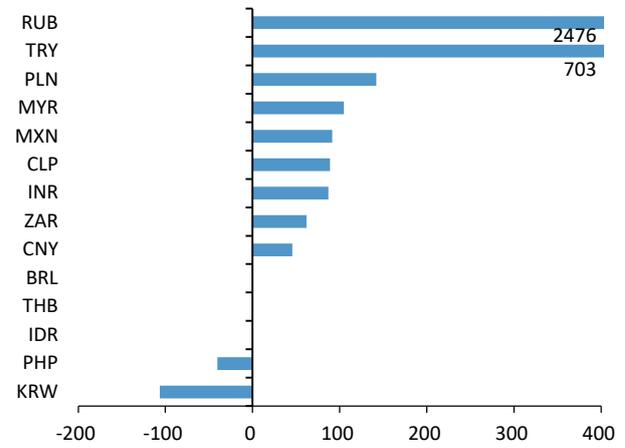
5年物スワップレート週間変化(bp)



注:データの都合によりタイ、韓国、ブラジルの値は未掲載。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

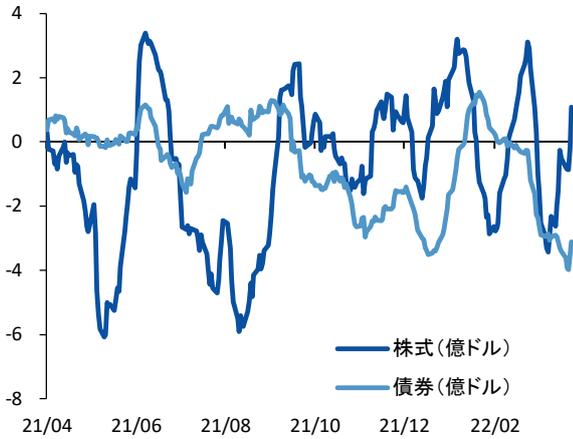


注:データの都合によりタイ、韓国、ブラジルの値は未掲載。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

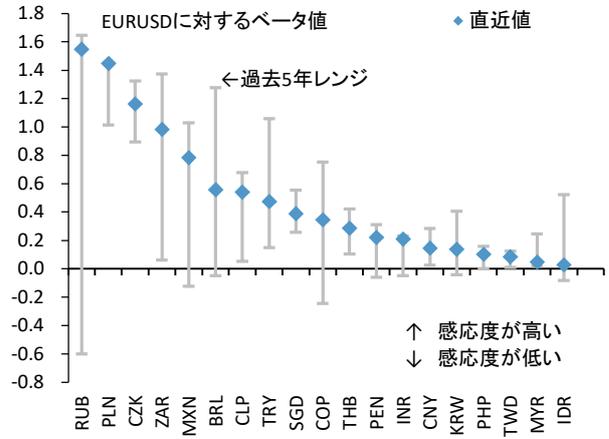
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



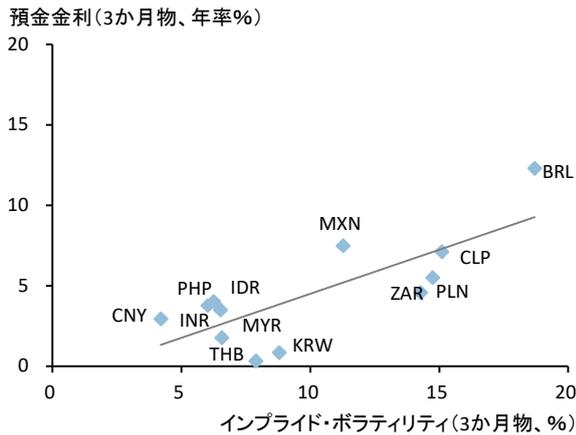
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



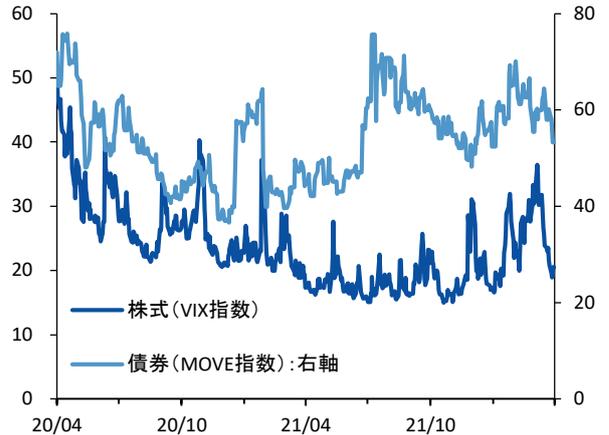
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



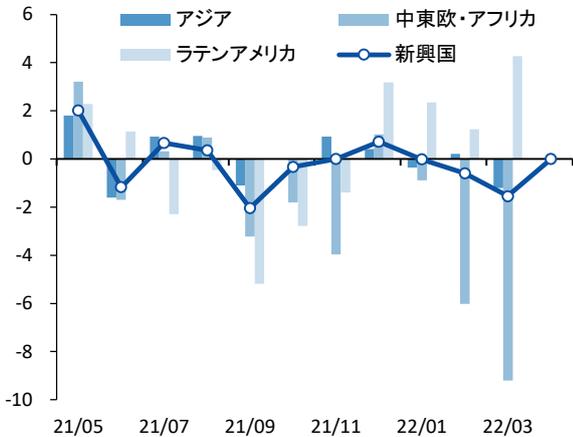
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



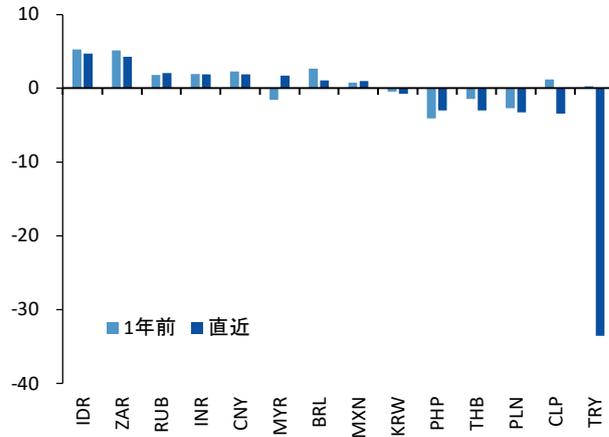
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
3月29日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	103.2%	103.1	--
29-31日 (火)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	105.8b	-23.4b	--
30日 (水)	タイ	対中央銀行指標金利	0.50%	0.50%	0.50%	--
31日 (木)	韓国	景況判断(製造業)	--	85	93	--
31日 (木)	韓国	景況判断(非製造業)	--	82	84	--
31日 (木)	韓国	鉱工業生産(前年比)	4.5%	6.5%	4.3%	--
31日 (木)	中国	製造業PMI	49.8	49.5	50.2	--
31日 (木)	中国	非製造業PMI	50.3	48.4	51.6	--
31日 (木)	タイ	国際収支:経常収支	-\$1000m	-\$652m	-\$2204m	--
4月1日 (金)	韓国	貿易収支	-\$50m	--	\$841m	\$831m
1日 (金)	中国	Caixin中国製造業PMI	49.9	--	50.4	--
1日 (金)	インドネシア	CPI(前年比)	2.5%	--	2.1%	--
4日 (月)	シンガポール	購買部景気指数	--	--	50.2	--
5日 (火)	韓国	CPI(前年比)	--	--	3.7%	--
5日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	--	--	3.0%	--
5日 (火)	タイ	CPI(前年比)	--	--	5.3%	--
5日 (火)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	11.8%	--
6日 (水)	中国	Caixin中国PMIサービス業	49.8	--	50.2	--
7-14日	シンガポール	GDP(前年比)	--	--	6.1%	--
8日 (金)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$1810.9m	--
8日 (金)	フィリピン	輸出(前年比)	--	--	8.9%	--
8日 (金)	フィリピン	貿易収支	--	--	-\$4696m	--
8日 (金)	インド	RBILレート	--	--	4.00%	--
8日 (金)	台湾	貿易収支	--	--	\$5.81b	--
8日 (金)	台湾	CPI(前年比)	--	--	2.4%	--
中東欧・アフリカ						
3月30日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	4.2%	5.9%	3.6%	--
31日 (木)	トルコ	貿易収支	-8.10b	-7.88b	-10.26b	-10.27b
31日 (木)	南ア	PPI 前年比	10.2%	10.5%	10.1%	--
31日 (木)	南ア	貿易収支(ラント)	21.9b	10.6b	3.6b	--
31日 (木)	ロシア	経常収支	--	46563m	41800m	--
4月4日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	54.4%	--
4日 (月)	トルコ	PPI 前年比	--	--	105.0%	--
6日 (水)	ロシア	CPI(前年比)	--	--	9.2%	--
ラテンアメリカ						
3月28日 (月)	メキシコ	貿易収支	-219.0m	1293.0m	-6286.3m	--
28日 (月)	ブラジル	税収	152150m	148664m	235321m	--
30日 (水)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	14.2%	14.8%	16.1%	--
4月1日 (金)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	-4.7%	--	-7.2%	--
1日 (金)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$9263m	--	\$4049m	--
6日 (水)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	--	--	1.5%	--
6日 (水)	メキシコ	総設備投資	--	--	7.6%	--
7日 (木)	メキシコ	CPI(前年比)	--	--	7.3%	--
8日 (金)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	--	--	10.5%	--

注:2022年4月1日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2022年 3月(実績)	SPOT	2022年 6月	9月	12月	2023年 3月	6月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.3065 ~ 6.3861	6.3400	6.43	6.46	6.50	6.53	6.55
香港ドル (HKD)	7.7825 ~ 7.8342	7.8317	7.83	7.84	7.84	7.85	7.85
インドルピー (INR)	73.779 ~ 76.981	75.789	76.6	74.8	74.2	73.0	73.5
インドネシアルピア (IDR)	14250 ~ 14425	14363	14630	14400	14250	14100	14050
韓国ウォン (KRW)	1185.81 ~ 1244.24	1211.93	1210	1220	1220	1230	1230
マレーシアリング (MYR)	4.1645 ~ 4.2370	4.2040	4.26	4.18	4.14	4.17	4.12
フィリピンペソ (PHP)	50.753 ~ 52.486	51.755	52.8	51.6	51.0	50.6	49.3
シンガポールドル (SGD)	1.3408 ~ 1.3688	1.3551	1.34	1.34	1.32	1.33	1.32
台湾ドル (TWD)	27.496 ~ 28.861	28.627	29.0	29.3	29.5	29.8	30.0
タイバーツ (THB)	32.09 ~ 33.80	33.26	33.8	33.0	32.0	31.6	31.0
ベトナムドン (VND)	22627 ~ 22910	22837	23080	22850	22600	22650	22550
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	74.1777 ~ 177.2606	81.2215	100.0	110.0	115.0	120.0	120.0
南アフリカランド (ZAR)	14.4025 ~ 16.0902	14.6108	14.8	15.5	16.3	17.2	16.5
トルコリラ (TRY)	12.8029 ~ 14.9932	14.6676	15.0	15.4	15.8	16.0	16.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.7195 ~ 5.7239	4.7411	5.30	5.55	5.40	5.45	5.50
メキシコペソ (MXN)	19.8178 ~ 21.4676	19.8782	20.2	20.3	20.5	20.7	20.8
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	17.867 ~ 19.620	19.153	18.99	19.04	19.08	19.16	18.93
香港ドル (HKD)	14.576 ~ 15.975	15.552	15.58	15.70	15.82	15.93	15.81
インドルピー (INR)	1.491 ~ 1.641	1.602	1.59	1.64	1.67	1.71	1.69
インドネシアルピア (100IDR)	0.792 ~ 0.869	0.848	0.834	0.854	0.870	0.887	0.883
韓国ウォン (100KRW)	9.322 ~ 10.183	10.051	10.08	10.08	10.16	10.16	10.08
マレーシアリング (MYR)	27.109 ~ 29.628	29.050	28.64	29.43	29.95	29.98	30.10
フィリピンペソ (PHP)	2.202 ~ 2.384	2.350	2.31	2.38	2.43	2.47	2.52
シンガポールドル (SGD)	84.19 ~ 91.94	89.88	91.04	91.79	93.94	93.98	93.94
台湾ドル (TWD)	4.060 ~ 4.340	4.255	4.21	4.21	4.20	4.20	4.13
タイバーツ (THB)	3.416 ~ 3.695	3.661	3.61	3.73	3.88	3.96	4.00
ベトナムドン (10000VND)	0.5005 ~ 0.5461	0.5331	0.53	0.54	0.55	0.55	0.55
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	0.680 ~ 1.558	1.500	1.22	1.12	1.08	1.04	1.03
南アフリカランド (ZAR)	7.190 ~ 8.620	8.340	8.24	7.94	7.61	7.27	7.52
トルコリラ (TRY)	7.639 ~ 9.008	8.297	8.13	7.99	7.85	7.81	7.75
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	20.216 ~ 26.332	25.697	23.02	22.16	22.96	22.94	22.55
メキシコペソ (MXN)	5.377 ~ 6.248	6.128	6.04	6.06	6.05	6.04	5.96

注: 1. 実績の欄は2022年3月31日まで。SPOTは4月1日の7時20分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。